

(行政視察・政務活動・**議員研修**) 報告書

平成27年11月 6日

白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 山田 裕一

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成27年10月28日(水) ～ 10月30日(金)
調査・研修先	市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)
調査事項 (研修事項)	市町村議会議員特別講座Ⅱ(政策立案コース)
対応者・講師等	地域再生マネージャー 斉藤 俊幸 氏 新潟県立大学国際地域学部 准教授 田口 一博 氏
概要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	<p>&lt;地域資源の再発見と地域づくり&gt;</p> <p>地域再生マネージャー 斉藤 俊幸 氏</p> <p>熊本県荒尾市の「買い物難民」、高知県土佐市の「マイナー魚のブランド化」、高知県本山町の「6次産業化と地域おこし協力隊」、秋田県由利本荘市の「国際教養大学との英語合宿により高校のグローバル化」など、斉藤氏が直接携わり、地域づくりに成功した実例を踏まえ、より具体的に地域に光を当てる手法を数多く学ばせていただいた。また、地方創生を実現するための地方版総合戦略について、「全国の総合戦略を見ていると95%が失敗。教育・福祉・子育てなどの八方美人で全く地域の特性が見えてこない。それぞれの地域でオンリーワンを目指してほしい」との叱咤激励をいただいた。</p> <p>青色LEDの開発でノーベル物理学賞を受賞された天野浩教授が研究中に結晶を作るために熱を加えるために使っていた窯が故障し、高温にならなくなった。しかし、天野教授は、故障している窯でも可能な実験を進め、低温のまま結晶を作る研究を進めていたところ、偶然、青色LEDに必要な結晶を作ることができた。との報道から、一つの物事を一所懸命に真剣にやっているときに、「怪我の功名」、「瓢箪から駒」といったように事前の意図とは異なる形で組織能力の蓄積が進んでいくことの「創発」が起こったと話されたことが非常に印象に残った。</p>



この講義を受講した感想は、この講義のテーマである、「地域資源の再発見と地域づくり」は、現在策定が進められている「地方創生戦略」と重なっており、2008年をピークにした我が国の人口は、減少局面に入っており、2050年には、9,700万人、2100年には、5,000万人を割り込むとの試算がなされている。また、地方と東京圏の経済格差拡大等が若い世代の地方からの流出と東京圏への一極集中を招いている。さらに出生率が極めて低い東京圏をはじめとする大都市に流出することにより、日本全体としての少子化に拍車をかけている現状にある。つまり、地方創生とは「ひと」が中心であり、長期的に地方で「ひと」をつくり、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくるという流れを確かなものにしていく必要がある。そのためには、地域課題解決の糸口を見出すためのモデルとして先進地に学び、オンリーワンを目指すための知恵と諦めない努力が必要である。

最後に「地方創生戦略」は毎年更新できることが分かった。つまり、白石市の「選択と集中」をどの方向に向けるのかを徹底的に議論するためのきっかけと気づきをいただいた講義であった。

#### <議会における政策立案の考え方>

新潟県立大学国際地域学部 准教授 田口 一博 氏

そもそも「政策」に必要なことは、目的が明確でなければならないことであり、決して手段ではない。また、「何をしたいのか」ではなくて、「どうしたいのか」がなければならないことを教えていただいた。また、当然、総合計画は市が策定するが、「我が市は、これでいく」との個別政策は、本来、議会の仕事であり、市全体の公共政策を考えるのが議会であることを学ばせていただき、正直、目から鱗であった。また、「政策立案」のヒントは、現在実施している政策や施策の重点やバランスを変えるところにあることを学ばせていただき、「政策立案」というと難しく考えがちであるが、今後も「市民との意見交換会」などを通して、頂戴した意見等を現在実施している、政策や施策に照らし合わせ、重点やバランスを変えることが政策立案につながることを実感した。

さらに「政策立案」のポイントとして、「何をどのように変えるのか」、「政策の担い手はだれか」、「効果の検証方法と評価」を具体的に考えることが重要であることを学ばせていただき、今後の目指す方向性を認識することができた。最後に国からの関わりを薄め、地方の独自性を高めることが地方創生であることを再確認し、今後の議会活動にこれまで以上に力強く取り組む覚悟を決意した。

#### <政策立案演習>

新潟県立大学国際地域学部 准教授 田口 一博 氏

今回の政策立案演習は、「人口減少社会への対応と地方創生」が全体テーマで行われ、「地域での高齢世代対応」、「地域での若者世代対応」、「人的資源を活かしたまちづくり」、「わがまちの特性を活かしたまちづくり」をサブテーマとして、12グループが政策立案演習に取り組んだ。我がグループは、「わがまちの特性を活かしたまちづくり」をサブテーマに掲げ、福岡県古賀市の特産品である「スイートコーン」を活かしたまちづくりについて政策立案を行った。政策立案を進めるにあたり、「現状と課題」、「政策の目的と目標」、「政策の実施方法」、「政策の効果」、「政策実施に必要な資源」を落とし込むことにより、政策立案する上でのイメージを抱くことができた。どのグループも個性豊かな政策を発表され、とても勉強になった。

#### <感想>

平成19年に市議会議員に初当選させていただき、この8年間で10数回、市町村アカデミーでの議員研修を受講させていただき、毎回、多くの気づきと刺激をいただいた。また、全国に多くの議員仲間を作ることもできた。そして今回は、「新風会」4名でこの研修を受講することができ、白石市議会として、大きな前進であると考えている。今回の研修を自分だけの知識とすることなく、会派で共有することが今後の議会活動の大きな土台になると信じている。結びに、議会は議事機関であることを再認識し、今回の研修で得た知識等を今後の議員活動に活かし、より一層、政策立案できる議会を目指し、精力的に活動していきたい。

第2808号

# 修了証書

宮城県白石市議会  
山田 裕一

あなたは、政策課題研修課程「市町村議会議員特別講座Ⅱ（政策立案コース）」（第29期第1組）において所定の課程を履修しこれを修了したことを証します。

平成27年10月30日

市町村職員中央研修所

学 長

林 省 吾

